

# 災害に抗して

編集 感染症対策研究部会( yamada@peace.email.ne.jp )

2022・8・10 No.44

現在の政府のコロナ感染症対策は、大変危険になるとも考えられます。

## 自治体議員の力で是正させましょう

「医療・保健所がひっ迫しているのだ」と、「感染全数把握中止」「感染症の2類相当の5類への引き下げ」(社会保険対応で患者負担)「待機期間の短縮」となりさらに国民の自己責任を求めています。データも全体を把握する事態にはなりません。これでは逆に感染を拡げる結果になってしまいます。

この事態を是正し、国民のいのちを守るために、超党派の自治体議員の賛同者をつのり、以下の要望を行い、厚生労働省に直接面談で申入れします。

### 要望書申入れ

日時 8月18日午後1時半～2時50分

会場 参議院議員会館 101会議室 (希望者歓迎)

### 賛同自治体議員募集

締め切り日 8月17日午前中 (このメール)まで

## 感染症対策研究部会

顧問 千田 忠男 (全国労働安全衛生学校学校長・同志社大学名誉教授)

相談役 福島みずほ (参議院議員) 中島 克仁 (衆議院議員)

阿部ともこ (衆議院議員) 宮沢 ゆか (参議院議員)

部会長 山田 厚 (全国労働安全衛生研究会代表・メールマガジン編集責任)

◆ 連絡先 甲府市北口3-7-13 (電話 055-254-4402 FAX 055-254-4403)

◆ 労安研 HP <http://rouanken.org/> Mail yamada@peace.email.ne.jp

**実質的な陽性者の放置となる「自宅療養」をやめ、****国の責任による、診察・入院治療を強く求める要望書**

新型コロナウイルス感染症の爆発的な広がりにおける、各地で医療ひっ迫・医療崩壊の事態を迎えました。私たち自治体議員は、抜本的な国の公的責任による、国民のいのちを守るために、「検査・診察・入院治療」の確立を求めます。

感染拡大が爆発的に拡大しています。7月中旬からの日本の新規感染者数は世界最多と言われています。連日過去最多の感染者数が続き、2月の第6派57万人の2倍以上になっています。子どもにも高齢者にも広がり、検査もできず、救急搬送も滞る最悪の事態が続いています。危険な「自宅療養」も激増して、183万人（自宅・調整中の陽性者）をこえ全体の約97%にもなり、「食料品配布の手が回らない」状態ともなっています。

当初、「感染は広がっても重症化しないから」といわれていましたが、感染数が広がれば必ず重症者も増えます。それどころか「派生型のBA・5は軽症ではすまない」という実態が明らかになってきました。この8月1日から8日間をみても1240名もの死亡者となり、国際的にもワースト状態ともなりました。日本の平均寿命もコロナ感染期で毎年度下がりをはじめました。

しかるに政府対応は「医療・保健所がひっ迫しているのだから」と「感染全数把握中止」「感染症の2類相当の5類への引き下げ」（社会保険対応で患者負担）「待機期間の短縮」「各自が感染予防」など。また大変な医療従事者には「タスク・シフト」（業務の共同化）などが対応化されようとしています。これでは感染拡大が急激な時に、ブレーキを壊し、さらに事態を深刻化させ、しかも自己責任の問題にするようなものです。つきましては、私たち自治体議員は〇〇〇名の賛同者名簿と共に以下の要望をいたします。

## 記

- 1、第7派の新型コロナウイルス感染症の危険性を十分に留意され、国民のいのちを守るために公衆衛生・医療、さらには公的データの確立と対策にむけ、抜本的に公的な財政資力を駆使してください。
- 2、医療従事者の労働安全環境確保と良好待遇で人材をしっかりと確保され、感染抑制のための検査を徹底し、「早期発見・早期入院」をはかってください。公的検査、診察、入院治療をしっかりとされ、「自宅放置」とも言える「自宅療養」を止め、臨時病院を設置し増床をはかるために、医療資源確保にむけ公的責任を果たしてください。
- 3、例外的に「自宅療養」とするならば、自治体や関係団体との連携を強め、全国的な安全基準を設定し、定期的な医療における健康観察と食料品の支給、及びゴミの処置等も含めた生活全般の支援対応を求めます。

以上 要望書を提出します。

2022年8月18日

要望書賛同自治体議員一同（賛同者名簿は別紙のとおり）